

# つれづれ歳時記ふっさ



## Fussa: A Living Demonstration of Seasonal Words

People change with the seasons, and come together at the local festivals and events which mark those changes. Fussa's scenic location changes four seasons with the beauty of poetry.

自然の移り変わりとともに、人々も心のふるさとを求めて、祭りや行事で素朴で温かい気持ちにふれあいます。豊かな自然を背景に、福生の1年は、四季折々詩情豊かに綴られていきます。

# 四季の息吹が聴こえてくる



華やかな成人式(1月)



消防団出初式(1月)

元旦の朝、街はいつもと違ったかしこまった装いで新しい年を迎えます。熊川神社や神明社は1年の無事を祈願するために初詣に訪れた人でにぎわいをみせます。

松がとれるころ、恒例の消防団出初式が、市内の小学校の校庭で行われます。1年間災害のない年であるようにという願いをこめて、冬空へ一斉放水が披露されます。

1月15日、大人の仲間入りをする青年男女を祝福し、励ます式典「成人式」が盛大に行われ、新成人たちは同窓生とともに晴ればらしい表情で、新しい世界へと飛び立ちます。

日と同じくして、多摩川の河原では1年の無病息災を願って「どんど焼き」が行われます。子どもたちが各家庭から集めた松飾りやしめ縄などを、竹の枠組みに杉の枝葉で覆った円錐形のものに取り付けると「塞の神」のできあがり。これに火がともると、大勢の参加者から歓声があがります。

2月3日の節分には、家々から「福はうち、鬼はそと」と子どもたちの元気な声が聞こえてきます。暦の上では立春ですが、このころがもっとも寒さが厳しくなります。

春一番が吹きはじめ、ようやく暖かな日差しが感じられる3月。桃の節句のころには、河原の土手に早春の野草が早くも花を咲かせ、いよいよ春の到来です。毎年恒例となった「春の第九」コンサートでは、小学生から高齢者まで、幅広い層の市民の歌声が響きます。

桜の花が咲き誇る4月。多摩川堤沿いの2.5kmに及ぶ桜並木では、毎年桜まつりが開かれ、満開の桜並木のもとで、一服の茶を楽しむ野だて、民踊パレード、おはやしなどが行われます。のどかな春の一日を楽しく過ごす姿もこのころならではの風景です。川のせせらぎを聞きながらの夜桜もまた格別の風情があります。桜吹雪が舞散るころ、新しい鞆、新しい洋服に身を包んだ新入生が、期待に胸を膨らませながら歩く姿が、街のあちらこちらでみられるようになります。

そよ風に吹かれて、鯉のぼりが青空に泳ぐ5月。萌える若葉とつつじの鮮やかな色に、街全体は明るく輝きます。

6月、多摩川のアユ釣りが解禁され、大公望にとっては待望の季節の到来です。朝もやのなかの釣り人の姿は、きながら水墨画のような風情が漂います。毎年中旬の土曜日には、玉川上水の清流で情緒たっぷりのホテルまつり(39ページへ続く)



新年を飾るどんど焼き(1月)



花見客でにぎわうふっさ桜まつり(4月)



風流を楽しむホテルまつり(6月)



みこしが街を練り歩き、威勢のよい声が響く神明社八雲まつり(7月)



文化活動の成果を発表する市民文化祭(11月)



すばらしい絵画にみとれてしまう。市民文化祭(11月)



ふっさ健康まつりで体力チェック(11月)



福生の名産品が並ぶ産業祭(11月)



輝きフェスティバルで魚のつかみどり(11月)



敬老大会(9月)



敬老大会(9月)



お年寄りも元気に楽しく老人運動会(10月)



健脚を競う福生ロードレース(11月)



年々、参加者がふえている女子健康マラソン(11月)

りが開かれます。ほのかな青白い光が乱舞する姿は、まさに夏の夜の夢物語。青梅橋付近には、露店が100軒ほど軒を連ね、大勢の見物客でにぎわいます。下旬になると多摩川中央公園には梅雨の冷たい雨に濡れながら、花しょうぶが紫紺のみごとな花を咲かせ、訪れた人の目を楽しませてくれます。

夏空がまぶしい7月。梅雨明けの到来とともに、八雲まつりがみこしや山車とともに勇壮に繰り上げられます。30台のみこしの合間にゆれる花万燈や竹万燈が祭りの雰囲気をごくと盛り上げ、夏の風物詩に彩りを添えます。このころには、市営プールから子どもたちの元気な歓声も聞こえはじめ、本格的な夏のはじまりです。

入道雲がぼっかり浮かぶ8月。織り姫と彦星が年1回逢瀬を楽しむという、ロマンチックな七夕まつりが、盛大に行われます。「伝統の仙台、竹飾りの平塚、壁面飾りの福生」といわれており、商店の壁に飾り付けをするのが特徴です。地元商店の人たちがこの日のために精魂こめてつくった豪華な飾りが見ものです。祭りの期間中は、ミス七夕コンテスト、流し踊り、パレード、花火大会など、誰もが楽しめるイベントも開催されます。

9月、虫の音に秋の気配が感じられるころ、市内の神社の秋祭りが行われます。9月15日の敬老の日には、お年寄りを対象に、感謝をこめたさまざまなイベントが行われます。

木々の葉が赤や黄色に色づく10月、日ごろ鍛えた腕を競う福生市民総合体育大会が幕を開けます。野球、バスケットボール、ゲートボール、卓球など、市内はスポーツの秋たけなわになります。また、市民ハイキングも開かれ、紅葉の美しい奥多摩、奥武蔵の山々で、秋を満喫しながら、大勢の人との親睦を深めます。

芸術の秋、11月には「福生ふれあいフェスティバル」が開かれます。これは市民文化祭、ふっさ健康まつり、産業祭を合同で行うもの。文化祭では、さまざまなジャンルの芸術作品が一堂に会し、日ごろの鍛錬の成果であるみごとにできばえの作品が並び、訪れる人を楽しませてくれます。また、晩秋はマラソンの季節でもあります。福生女子健康マラソン、福生ロードレースが市内の幹線道路で行われ、完走をめざして走る選手に、沿道から惜しみない声援が送られます。

師走の街は、大売出しの赤いほりでにぎやかになります。福祉バザーや、スケート教室、野鳥の観察会なども行われます。市内の寺から聞こえてくる除夜の鐘を聞きながら、一年何事もなかったことに感謝し、年をまたひとつ越していくのです。